

放送番組審議会議事録

1. 2022年9月15日（木）
2. KTS 別館（鹿児島シティエフエム株式会社 2F 会議室）
3. 委員総数 5名
出席委員数 4名
出席委員 三島盛武、南徹、中尾成昭、前田真理
放送事業者側出席者 金子貴治、徳永文子（番組パーソナリティー）、内村明香
4. 番組審議
「空・とぶ・TAMAGO～情報宅配便～」毎週水曜日 11：30～13：30
5. 別紙参照
6. 自社放送 : なし

<議 事>

番組名：空・とぶ・TAMAGO～情報宅配便～

放送日時：毎週水曜日 11：30～13：30

パーソナリティ この番組が最初に放送されたのは2000年、私が担当になったのは、2002年からで、20年以上放送されているフレンズFMの中では長寿番組です。月曜日から木曜日まで、5名の担当パーソナリティが交代で様々な情報を詰め込んで番組を放送しています。水曜日は、今後、シニア世代を応援するような番組作りができればと考えています。

委員 とても爽やかなお声で違和感がありませんでした。盛りだくさんの情報を明確に伝えていらっしゃる印象でした。後半のメッセージと歌の時間配分を工夫されてみてはいかがでしょうか？

委員 毎回、審議員として番組を聴かせていただき、パーソナリティのキャラクターが番組をつくるのだなと感じています。徳永さんの場合は、すごく自然でまるでお茶飲み話をしている感覚なのが、お昼の時間帯にぴったりだと思いました。ナチュラルさっていうのが、文子さんらしさなのですね。機械操作を間違った場面もありましたが、それすらも自然で、慌てた様子も感じさせず、ラジオの良さを感じました。

一つ、気になった点といえば、「ビートルズその時代」のコーナーで毎回話す方が何者かがよく分からないので、初めて番組を聴かれた方のためにも、話す方の簡単な枕詞みたいなものがあると、心の準備もできるし、分かりやすいかもしれません。

委員 すごく分かりやすく情報を伝えていらっしゃいました。インスタライブも同時にされているところですが、これからの時代、メディアミックスは必須かと思えます。

全体として、テレビなどを見ている、煽りっぱなしだという印象を受けることが多いのですが、マスコミの役割は根底に、地域を良くしたい！みんなに元気を出してほしい！という愛があるべきだと思います。徳永さんの放送ではそれが伝わってきました。それは、長年の経験がある徳永さんだからこそできることなのだと感じます。

委員 以前に一度、「空・とぶ・TAMAGO～情報宅配便～」は審議したことがあり、その際には、降灰方向のアナウンスが不親切、生活に身近に感じられるように、具体的に説明する必要があるのでは？という意見が出ました。（例えば降灰が北北西にと話すのではなく、谷山方面になど具体的に）今回は、その意見が反映されたのか良い印象を持ちました。

一つ、後半の番宣（ジングル）が多すぎる印象です。

話し方に生活感があり、好感を持ちました。近年、アナウンサーが上手に話せていない、それは、よく耳にする手垢のついたような表現をしているため。（例えば、黒柳徹子が動物や子どもを見て、かわいいの一言で終わるなど）そうではない、生活感ある表現は、11時30分のお昼の時間帯にもあっているように感じます。

冒頭でお話していたコロナの検査の話にプラスして、コロナ対策の話などをもっと深くすると、生活感がより出るのではないかと。市民のひろばにばかり頼るのではなく、天候不順という話よりも今日は洗濯日和ですと話す方が、より生活感が出るのではないかと。言いたいことをどう相手に伝えるかは、表現の工夫次第な気がします。生活感のある話し方は重要だと思いますので、これからもそこを大切にしてください。